

大道仮説実験講座〈しゅぼしゅぼ〉参加のみなさまへ

NPO法人楽知ん研究所の渡辺規夫です。10月1日の講座にご参加いただきありがとうございました。講座通信ができましたので、お送りします。ご家族のみなさまで読みながら講座のことを思い出していただけると嬉しいです。

原子論から生まれた科学講座

今回の大道仮説実験講座は「科学入門の入門」です。

馬16頭で真空の半球を引っ張ったゲーリケの実験は、1600年代のことでした。当時、「すべてのものは原子でできている」ということが明らかになったために真空実験がみんなの関心をひきつけたのです。この「すべてのものは原子でできている」という考え(原子論的自然観)は、今から2500年前の古代ギリシャの科学者の主張です。



古代ギリシャの原子論を知ること、ヨーロッパではルネッサンスという大きな運動が起き、そこから近代科学が生まれ、各地に科学講座をたのしむ人たちがたくさんあられました。

ルネッサンスというのは「自分の大事さを知る」という意味がありました。中世の時代には、「制度の中に自分をあわせていく」ということに価値があったのに対して、「自分というものを生かして制度を直していく」という営みがルネッサンスであった。今までの学問は「これを教えなかったら今の制度に適應できない」ということだったけれども、これからは「教えると時代おくれになる」というように発想を転換しなきゃならない。今、「こうならなきゃならない」という、知識を獲得させるための教育が確立しすぎちゃった。そうして、みんな自己を失っている。「みんなコレをしなきゃならない」というタテマエがあるけど、「知らない自分のほうが大事なんだ、ワクの方がくだらないのだ」と考える。

板倉聖宣講演 1972年4月22日 大阪四条畷小学校にて

人間を大切にするために教育内容の確立が必要

敗戦直後は「子どもを大切にする」という教育が始まりましたが、教育内容が不明になったことと、それでは社会に適應できないということの2つの理由でその教育思想はつぶれました。仮説実験授業は「子どもを大事にするためにこそ内容がちゃんとしなきゃいけない」と考えてつくられました。

楽知ん研究所は、仮説実験授業をみんなのものにする(仮説実験授業の大衆化)事業を行っています。

大道仮説実験講座 「科学の入門」の入門

親子孫で〈たのしい仮説実験〉講座 科学入門講座

ファン倶楽部 親子孫講座を3回以上受けた人限定の講座です。長野県ではまだ実現していません。

私たちの活動は第二のルネッサンスと言えると思います。

〒386-0032 上田市諏訪形1214-5
watanabe@lutin.org 渡辺規夫